展示室7　染めと織り　－着物の美－　2022年11月1日(火)～12月21日(水)

今回は当館のコレクションより、6人の人間国宝による染織作品をご紹介します。芹沢銈介（1895-1984）は伝統的な中形や小紋などの型染や琉球の紅型を研究して、型絵染と呼ばれる独自の技法を創始、型紙の効果を発揮した絵や文字で、明解かつ温和に表現しました。森口邦彦（1941-　）はパリで学んだグラフィック・デザインと幾何学文様を大胆に組み合わせ、伝統工芸の友禅に留まらない新しい可能性を見出しました。小宮康正（1956-　）は型紙や糊など材料の研究、両面染や長板中形などさらに技術を磨き、芸術性の高い作品を制作しています。志村ふくみ（1924-　）は様々な植物で糸を染め織り上げた紬織で、自然の命を映した繊細かつ洗練された美の世界を創造し、農村の手仕事であった紬織を芸術へと昇華させました。佐々木苑子（1939-　）は身近な鳥や植物を、植物染料で染めた紬糸による絵絣で華麗に表しました。北村武資（1935-2022）は古代裂の復元研究で知られた初代・龍村平藏の作品に感銘を受けて、各種技法の復元研究に努め、織物の仕組みや構造に深い関心を寄せながら、復元に留まらない新たな表現を作り上げました。それぞれの卓越した技と表現をおたのしみください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法（縦×横cm）	人間国宝認定分野、年、備考
1	芹沢銈介	いろは文錆朱地黄土掛け縮緬地着物	1975（昭和50）年	型絵染・絹	166.2×62.7	「型絵染」1956年
2	森口邦彦	白雨	1970（昭45）年	友禅染・絹	168.0×63.0	「友禅」2007年
3		天動	1986（昭61）年	友禅染・絹	170.5×65.0	
4	小宮康正	長板中形着物「亀甲取花蝶」	1988（昭和63）年	型染・綿	162.0×65.0	「江戸小紋」2018年 作者寄贈
5	志村ふくみ	鈴虫	1959（昭和34）年	紬織・絹	154.6×64.0	「紬織」1990年
6		湖畔の秋	1951（昭和56）年	紬織・絹	170.8×68.5	
7		マルコ	1981（昭和56）年	紬織・絹	167.2×66.3	
8		雪の藤原	1982（昭和57）年	紬織・絹	167.2×67.5	作者寄贈
9		流砂	1983（昭和58）年	紬織・絹	166.8×68.5	
10		藍格子段	1983（昭和58）年	紬織・絹	169.0×69.0	
11		五節	1984（昭和59）年	紬織・絹	167.0×69.0	
12		沈める寺	1991（平成3）年	紬織・絹	167.3×66.5	
13	佐々木苑子	水畔	2000（平12）年	紬織、絵絣・絹	177.5×66.0	「紬織」2005年
14		青葉闇	2011（平23）年	紬織、絵絣・絹	180.0×67.0	
15	北村武資	金地経錦丸帯	1987（昭和62）年	経錦・絹、金糸	幅71.0	「経錦」2000年 作者寄贈
16		羅地金襴丸帯	1997（平成9）年	羅金・絹、金糸	幅71.0	「羅」1995年
17	芹沢銈介	武田泰淳『十三妹』挿絵より				
		48. 支拂を迫る金満	1966（昭和41）年	型絵染・紙	16.2×20.7	
		67. 船頭の争ひ	1966（昭和41）年	型絵染・紙	16.7×20.6	

＊作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。
また、都合により展示作品を変更する場合もございます。ご了承ください。

【次回予告】「上毛三山をえがく　赤城・榛名・妙義」 2023年1月14日(土)～2月26日(日)

群馬を代表する山として広く親しまれている赤城山、榛名山、妙義山を描いた作品をご紹介します。

群馬県立近代美術館